2019 年度実施概要(No. 1)

学校名

東京都立小笠原高等学校

採択活動名

島しょにおける海洋教育を通した地域創生人材の育成

取り組みの概要

１．実践の概要・ねらい

小笠原諸島は６日に一便の船が生活航路の東京都最遠隔地にある人の住む離島であり、他の地域との交流がなかなかしにくい立地にある。都立八丈高校との海洋教育の推進や小笠原の海洋文化・産業等の学習とともに、島しょ高校生の代表が集まって研修・情報交換を行うことで各島の良さや他校の取組を知り、課題の共有と改善策等の協議を通して、生徒の思考力・判断力・問題解決能力を培い、リーダーの在り方を学び、島しょ高校生間のつながりをつくる。これらを生徒が共有して、島しょの地域創生を担う人材を育成する。

２．実践計画

小笠原の海洋環境を生かした「総合的な探求の時間」及び東京都設定科目「人間と社会」の単元開発

地域に目を向けることで、地域や社会の状況や課題を探り、それを踏まえて自分の在り方・生き方を探求していく教材を検討する。それを通して、島しょ地域に育った生徒の地域創生を担う人材を育成する。また、地域を創る主権者としての意識を高める。

（１）八丈高校と連携した海洋調査の実施

小笠原諸島父島と八丈島に流れ着く海洋漂着物の調査を行い、その違いについて学習する。四方を海に囲まれた離島において、海岸は身近な存在であり、人々の生活と生産活動を支えてきたかけがえのない財産である。これまで八丈島からはおがさわら丸寄港便を利用して２度にわたり来島し、本校からは１度八丈島を訪問し、相互の交流とともにお互いの海産生物の調査を通して差異についても研究してきた。次年度は本校から八丈島に向かう上で、海洋調査を組み込み、「海洋漂着物調査」という単元開発を行い、生徒の意識の変容を図る。

（２）「島しょ高校生サミット」に参加し「島しょ高校生サミット」に学ぶ

３回目の島しょ高校生が集まる会議の場を通して、それぞれの学校で行っている取組について情報交換を行い、島しょ地域の防災をはじめ、それぞれの島の良さや課題とその解決に向けた取り組みについて共有し、島しょ地域のネットワークをさらに強めるとともに、島しょ地域を創生していく意欲とイメージを創る。参加は学校の代表者なので、参加者による報告会を実施し、サミットの知見を全校生徒で共有する。

（３）小笠原の海洋文化・海洋産業

小笠原諸島の海洋文化やダイビング、ホエールウォッチング等の自然を観る海洋観光及び広く海洋産業に従事してきた島の方に話を伺い島しょ地域の海洋文化・産業に対する認識を深める。

（４）小笠原の環境保護活動を学ぶ

普段は入島できない小笠原諸島兄島での関係諸機関（環境省・林野庁・村役場・東京都等）の自然環境保護活動について事前学習と体験活動を行うことにより、世界自然遺産の地小笠原における固有種の保全活動・外来種除去等の海洋島における自然環境の保護活動について認識を深める。また、このことへの自らの心構え・取組についても考える。

（５）小笠原の将来を海洋教育の視点から考える活動と発信

①ネットや紙面発表、ポスターを利用した研究成果や情報の発信

②成果報告会等を通して、自らの探求成果をまとめて表現する。質疑応答を受けることで、自らの取組を振り返り、視野を広げ、自分の在り方・生き方について考察する。

③小笠原の海産生物の自然観察会の実施

地域の自然観察会等に協力し、自然保護研究会が調査・研究している事項の内容の深化を図り、自然観察会の方法を学ぶ。

３．今年度の実践とその成果

（１）都立八丈高校・都立永山高校との交流

都立八丈高校との交流では、八丈高校の生徒と共に、八丈島のフィールドワークを実施した。地域の人々の眼差しを通して、小笠原との違いを理解することができた。また、都立永山高校生徒会との交流を通して、離島の魅力や小笠原の海洋環境を生かした観光政策について PR した。

（２）島しょ高校生サミット

参加生徒が、３泊４日のサミット（三宅島では１泊２日）を経て、各島それぞれの特色について相互に理解を深める場となった。また、前年度から継続されていた他校生徒とのつながりをもとに、島しょ地域の活性化を高校生が主体となって取り組んでいく姿勢が培われた。

（３）小笠原の自然環境とその保全についての学習

①「総合的な探究の時間」及び東京都設定科目「人間と社会」

第１学年「人間と社会」（総合的な探究の時間）の活動の一環として、村役場環境課・環境省・自然環境研究センター・林野庁の外部機関と連携し計 8 時間の事前学習を重ね、兄島では何が貴重なのか、どんな問題を抱えているのか等を理解し意識を高め、兄島野外活動（散策）を行った。兄島のポイントで、講師からマイマイや貴重な植物についての解説を聞き、生徒たちは自分たちの肌で兄島の素晴らしさ、重要性を感じ、島の未来についてもう一度考え直す機会となった。

②海洋教育講演会「海に流れ出るマイクロプラスチック」

海洋大学大学院生による講演を聞き、最近大きな環境問題となっているマイクロプラスチックについて、写真や実物も見ながら理解を深めた。

（４）小笠原の海洋文化についての学習

①海洋教育講演会 「世界遺産小笠原の中でのアウトリガーカヌー文化について」

父島で自給自足を目指しながらエコヴィレッジ（民宿）を営み、小笠原村議会議員も務める清水良一氏に、パワーポイントで写真や地図などを示しながらアウトリガーカヌーの歴史などを説明してもらった。この講演会を通して小笠原に伝わるアウトリガーカヌーについての理解を深めた。

②連続講座「小笠原ことばを通じて言語学を学ぼう　～小笠原ことばの再発見～」

小笠原をはじめとする環太平洋の言語研究の第一人者である首都大学東京人文科学研究科教授ダニエル・ロング氏から、一日目は小笠原ことばの概観、島ことばと標準語のマッチング、言語変化の規則など専門的なことを大阪弁で面白く説明していただき、二日目には父島育ちの欧米系島民南ジョージ氏も迎えて小笠原ことばの使い方などを説明して頂いた。

③ワークショップ「小笠原フラの理解」

20 年余り前にハワイのフラを島民に教えることで始まり、今では小笠原の文化の一つに数えられるまでになり、高校生の多くが幼い頃から親しんでいる「小笠原フラ」。その生みの親であり「ナア・プア・ナニ・オ・マクア」代表の猪村真名美氏に、フラダンスの歴史・意味や小笠原の文化について講演していただき、フラについての理解を一層深めた。

（５） 小笠原の将来を海洋教育の視点から考える活動と発信

① 上記（１）～（４）の実践を経て、小笠原の抱える問題を再度考え、小笠原高校全校生徒へ向けた還元発表会を行った。本発表会を通して、小笠原の貴重さをどのように守るか・美しい小笠原を後世にどのように伝えるかについて考えを深めることができた。

② 日本森林学会高校生ポスター部門に、自然保護研究会がカワニナに関する研究活動をまとめたポスターを応募し、優秀賞を受賞した。（平成３１年３月）

（６）次年度への課題

・他校との交流を通して生徒の主体性や自立性を学ばせることができ、本校の特色として掲げることができるにもかかわらず、継続的に実施していく予算措置が講じられないため、継続性がなく遺憾ながら今後の発展が見込めない。

・教員異動のサイクルが早い島しょ地域において、他校との交流プログラム及び校内体制をしっかりと作っていくことが課題である。

・島しょ間のアクセスの悪さ・不便さ。小笠原からは特に移動に膨大な費用と時間が必要である。

・島しょ間で集まる形の実践は、台風等の天候に大きく左右されることが難点である。

４．主な連携機関と内容

・首都大学東京人文科学研究科教授ダニエル・ロング氏（小笠原や環太平洋の言語文化を学ぶ）

・環境省小笠原諸島自然保護官事務所、林野庁小笠原諸島生態系保全センター、小笠原村環境課（生態系保全活動支援）

2019 年度実施概要（No.2）

学校名

東京都立小笠原高等学校

採択活動名

都立八丈高校・都立永山高校との交流
「島しょにおける海洋教育を通した地域創生人材の育成」をテーマとする今年度の実践のうちの（１）

取り組みの概要

１　目　的

本校と都立八丈高等学校との交流を通じて、それぞれの島の自然環境及び海洋と文化を学び比較検討し、小笠原のアイデンティティを確立する。さらに両校の海洋教育に関する取組の情報交換等を行い、それぞれの課題の共有とその改善策の協議を通して、次年度以降の海洋教育の推進に向けて共通理解を図る。小笠原のアイデンティティを確立し、海洋教育における実践の報告と小笠原の観光資源などを普及する活動を、都立永山高校との交流を通して行い、生徒のリーダーシップ育成及び地域還元できる人材育成を図る。

２　日　時　　令和元年 8 月 30 日（金）～9 月 8 日（日）

３　場　所　　東京都立八丈高等学校　　八丈島八丈町大賀郷 3020　　TEL04996-2-3738
　　東京都立永山高等学校　　多摩市永山 5-22　　TEL042-374-9891

４　参加者　　本校代表生徒　　定員２名

５　引率者　　生活指導部副主任　矢内新太郎　　生徒会担当　山本史彬

６　事前指導　令和元年 8 月 20 日（火）島嶼会館 1F 交流スペース
　　8 月 21 日（水）島嶼会館 1F 交流スペース

７　行　程　　令和元年 8 月 30 日（金）～9 月 8 日（日）　　9 泊 10 日（船中 3 泊）

8 月 30 日（金）	14:20	二見港船客待合所クジラ像の所に集合
	14:30	出発式（終わり次第乗船）
	15:30	出港（18:00 夕食）
	22:00	船内点呼（おがさわら丸　船中泊）
8 月 31 日（土）	6:00	船内点呼（7:00 朝食　12:00 昼食）
	15:00	竹芝着
	15:30	事前準備（18:00 夕食）
	21:30	竹芝ターミナル集合・点呼、乗船準備
	22:30	竹芝発（橘丸　船中泊）
9 月 1 日（日）	6:00	船内点呼（7:00　朝食）
	8:30	八丈着

	9:00	島内調査（玉石垣・大坂トンネル）
	10:00	服部屋敷
	11:00	昼食
	12:00	島内調査（地熱館）
	13:00	島内調査（エコあぐりマート）
	14:00	島内調査（古民家カフェ・裏見ヶ滝）
	15:15	島内調査（足湯・名古展望台・みはらしの湯）
	18:00	宿舎帰着後、資料整理（18:30 夕食）
	22:00	就寝
9 月 2 日（月）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	8:10	八丈高校到着・挨拶
	9:00	校内見学
	10:00	島内調査（黄八丈体験）（11:30 昼食）
	12:00	島内調査（ふれあい牧場・八丈富士）
	17:00	宿舎帰着後、資料整理（18:30 夕食）
	22:00	就寝
9 月 3 日（火）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	8:15	八丈高訪問
	9:00~12:00	挨拶・首都大学東京学生と交流（12:00 昼食）
	13:00	島内調査（底土・八重根・裏見ヶ滝）
	15:30	生徒会意見交換
	17:30	宿舎帰着・資料整理（18:30 夕食）
	22:00	就寝
9 月 4 日（水）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	8:50	出発
	9:00	産業観光課訪問
	10:30	島内調査（12:20 八丈生徒と昼食）
	13:05	授業体験（八丈太鼓）
	15:30	部活動体験
	17:00	島内調査（19:00 夕食）
	22:00	就寝
9 月 5 日（木）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	8:30	宿舎発
	9:30	八丈発（12:00 船内昼食 17:00 船内夕食）
	20:45	竹芝着、島嶼会館へ移動
	22:00	就寝
9 月 6 日（金）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	9:00	資料整理
	10:30	島嶼会館出発

	11:50	永山高校着・挨拶・打合せ
	13:00	校内見学・授業見学
	15:30	交流会
	18:30	宿舎帰着（19:30 夕食）
	22:00	就寝
9 月 7 日（土）	6:00	起床点呼（7:00　朝食）
	11:00	竹芝発（12:00 昼食 18:00 夕食）
	22:00	船内点呼（おがさわら丸船中泊）
9 月 8 日（日）	6:00	起床・点呼（7:00 朝食）
	11:00	二見港着・解散式

８　宿泊先

9 月 1 日（日）～9 月 5 日（木）・・・4 泊

ペンション大吉丸

〒100-1401　東京都八丈島八丈町大賀郷 2634-2　TEL 04996-2-5855

9 月 6 日（金）～9 月 7 日（土）・・・2 泊

島嶼会館

〒105-0022　東京都港区海岸１－４－１５　　TEL 03-3427-3601

９　費 用

（１）　費用については参加生徒にかかる保険代及び以下の費用を海洋教育パイオニアスクールプログラムより拠出する。

① おがさわら丸（２等和室・島民割引利用運賃）往復

② 9 月 1～5 日の八丈島における宿泊費（夕朝食付き４泊分）

③ 9 月 6・7 日の島嶼会館宿泊費（夕朝食付き２泊分）

④ 竹芝から八丈島までの船賃（橘丸学生割引利用運賃）往復

⑤ 浜松町（JR 山手線）から京王永山（京王相模原線）までの往復

（２）上記以外の食事代、交通費等は自己負担とする。

（３）引率教員の旅費等は自律経営推進予算から支出する。

１０　その他

参加生徒 1 名は今回の交流の趣旨により、生徒会より選出する。もう 1 名については生徒会を原則とし、趣旨に賛同し、指導に従うことができる生徒の参加を募り、校内で選考を行う。

１１　経過

都立八丈高校・都立永山高校との交流は予定通りに実施できたが、９月７日（土）竹芝発予定だったおがさわら丸が台風のため２日遅れとなり、７日（土）８日（日）は海員会館に急遽待機し、９日（月）竹芝発で帰島した。

活動中の写真

1/3

写真 1

写真 2

学校名	東京都立小笠原高等学校
タイトル	島しょにおける海洋教育を通した地域創生人材の育成 （１）都立八丈高校・都立永山高校との交流
コメント	８月３０日（金）～９月５日（木）都立八丈高校との交流で実施したフィールドワークの様子。 写真１：人工的に造成された黒砂の海岸 写真２：八丈町の観光資源である鮮やかな海洋を望む八丈富士の牧場。 いずれも小笠原諸島父島ではみられない観光資源である。

2/3

写真 3

写真 4

学校名	東京都立小笠原高等学校
タイトル	島しょにおける海洋教育を通した地域創生人材の育成 （１）都立八丈高校・都立永山高校との交流
コメント	９月６日（金）に行った都立永山高校との交流の様子。小笠原高校からは「小笠原が抱える海洋問題等について」を中心に本土の高校生にプレゼンテーションを行った。 写真３：都立永山高校生徒会に向けた小笠原高校生徒会によるプレゼンテーション。 写真４：都立永山高校生徒会による交流事業の様子。

3/3

写真 5

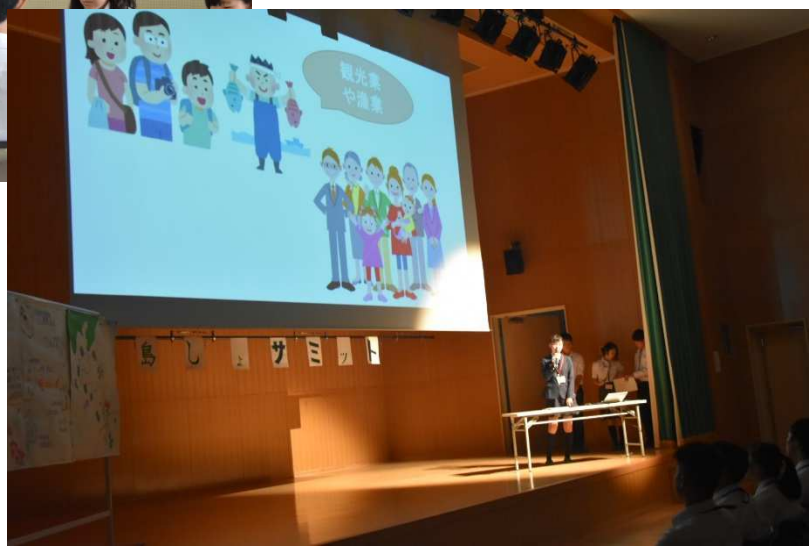

写真 6

学校名	東京都立小笠原高等学校
タイトル	島しょにおける海洋教育を通した地域創生人材の育成 （２）島しょ高校生サミット
コメント	７月２３日・２４日に三宅島で実施された第３回島しょサミット。 写真５：島しょ地域の高校が一堂に会し、島しょ地域の未来や今後の発展について討論している様子。 写真６：各島や各校の魅力を PR するプレゼンテーションの様子。